

## 2017 年第 57 回日本リンパ網内系学会

### 将来構想実施委員会（以下、将来委員会と略する）のまとめ、及び理事会での議論を含めてのご報告

将来構想委員会 2017 年 6 月 29 日京王プラザホテルで開催 会議時間は正確ではありませんが、約 1 時間半程度。

出席者（敬称略）：吉野正（委員長）、近藤英生（副委員長）、岩城憲子、岡谷健史、岡本晃直、加藤省一、河本啓介、菊地智樹、高柳奈津子、竹内真衣、佐々木裕哉、

欠席者（敬称略）：青木智広（留学中）メールによるご提案を事前にいただいた）大西紘二

1. 将来委員会の目的は、学会の活性化にあり、具体的には参加者の増加、学会員の増加にある。
2. 今回の会議は、理事会での時間的制約が強く、詳細には報告できないので、3 点に絞ることとした。すなわち、海外学会への渡航援助、学会への抄録に対する助言等、コメディカルと学生の参加者増加を誘導する方法についてである。
3. 海外学会（ASH 等）への援助をいただきたい。そのような演題に選ばれることは、海外学会への出席を上司等へ申請する強い後押しになる。その制度が演題提出の動機づけにもなる。学会奨励賞（2 名）については今まで合計 20 万円が支出されたが、トロフィーと賞状にすることにより 15 万円程度が計上できる。十分な額ではないが、ひとり 5 万円程度で 3 名にお渡しできる。このことは、理事会、社員総会でも承認された。
4. 優秀演題については、年齢制限がないが、海外学会（ASH のほか、ルガノ、ASCO、欧米の血液系、内科系（？）や病理関係の学会を対象として若手主体としたい。若手については、多くの場合 40 歳を基準とするものが多いが、そうするとかなり限られるので、45 歳という数字が出てきて、明瞭な異論はなかった。また、学会奨励賞は 2 名であるが、援助は 3 名可能であるので、優秀演題に選ばれたものから、海外学会への出席希望がある方を募って援助したい（このあたり、十分な議論はできていなかったなので、諸先生方に提案します）。援助対象者がなかったり、2 名以下の場合もありうるなので、次年度に繰り越すことも考えましたが、煩雑になり、齟齬が生じる可能性もあるので、「最大 3 名」としたいと思います。これも異議があれば意

見てください。

5. 審査について、外国での発表を見越して、3つのセッションのうち一つを英語のセッションにして、海外からの学会招聘者に審査に加わっていただくという、興味深い提案がありましたが、まずは現在の方式でやってみて提案された方法のほうがよいと判断された時点でそれを行うという結論となりました。なお、来年の名古屋では優秀演題を多くの会員に見ていただくという観点から 5-6 題にしたいということを中村次期会長が仰っているとのことで（加藤委員からの情報）、それを選考対象としたい。
6. このような議論をするときに、次期会長（プログラム委員会）や教育委員会とのすり合わせが必要であることを痛感しました。会議では、実施委員会からオブザーバーでそのような委員会に出席することも提案しましたが、むしろ、次期会長や教育委員長と近い方を推薦いただき、本委員会に出席いただくほうが容易で無駄がないので、そのことを理事長に提案したいと思います。異議のある方は、返信ください。

ここまでは、理事会にて報告できましたが、あまりにも時間がなく、以下のことは積み残しになりました。わたくしの非力によるところで、委員各位には申し訳ない気持ちで一杯です。来年については、理事会で検討時間を取ることを確約を得ましたので、ご容赦ください。

7. 論文の作成といった視点での教育的な講演などをしていただきたい。また、学会に抄録を提出した場合、それについての意見、評価、これはよりよい発表とするための助言がいただけると、非常によい。このことは、次期会長にはお願いしました。
8. 臨床検査技師、放射線技師、看護師といった職種のひとびとが参加しやすいような環境を整える。今回の委員会の会議では、特に FCM や血液像を見ている人、他の臨床検査技師の方に焦点を合わせて、例えば教育委員会の行っている啓蒙的なプログラムにその方たちの枠をとる。臨床検査技師の方々のためのセッションを設ける、といったことが提案された。前者は、先着順となるほど人気が高いので、難しい点があると思いますが、検討していただくようにいたします。また、日程としては、臨床検査技師の方々のことを考えると土日のほうが参加容易とのことで、現在でも最終日が土曜になっています。（コメディカルとの協調活動は、造血幹細胞移植学会などでよくされており、将来構想委員には、非常に良い機会との強い印象があります。）
9. 学生への宣伝を含めて、学生セッションの充実を求める意見が出た。症例報告等々いろいろな活動を披歴してもらうチャンスがあるとよい。